



2010年7月ベトナム出張 現地の障害当事者グループと（筆者は左から二人目）

たことで、たくさんの良い友人にも恵まれました。日本が親ならアメリカは人生の恩人のような存在であり、UCLAで色々なことにチャレンジしてきた経験が、今の私を作っていると思います。多様性を受け入れ、これを原動力にできる社会は素晴らしい。そこから多様性の持つ

可能性やマイノリティの生きやすい社会構造への興味が高まり、文化人類学や国際問題の専攻につながり、最終的に今の仕事に結びついたのだと思います。国際協力は、今非常にホットな分野です！チャリティーや寄付といった従来の手法が様変わりし、誰もが自身のライフスタイル

の一部として気軽に社会貢献に携わることができるようになりました。新しい技術やデザイン、仕事の創造は、かつてなかったレベルで障害や病気、貧困などの社会的バリアに苦しむ人々の生活を変えています。

当日は、その挑戦の一部をみなさんとシェアできればと思います。ちなみに、私のブログ「それゆけ！国際協力プロジェクト・コーディネーター

(<http://blog.canpan.info/p-coordinator>)」をご覧いただくと、仕事の一部（とプライベート）を知っていただけるかと思うので、お時間があればぜひどうぞ（どうでもいい話も多いですが・・・）よろしくお願ひいたします。

※BOPビジネス：BOPは「Base / Bottom of the Pyramid」の略で、所得別人口ピラミッドの底辺、世界の7割以上を占める最貧困層を差します。BOPビジネスとは、企業が途上国においてBOP層を対象にビジネスを行いながら、同時に貧困問題の解決を目指す取り組みです。

Westwood Reunionのスピーカー

横山匡 言語学 '83

タイトル：Pauley Pavilion と Ducky Drake Stadium



父の仕事の関係で14歳からイタリアで過ごし2年後ロス警察の白バイのデザインに携わることになった父親について南カリフォルニアへ。オレンジ郡の高校を経てUCLA言語学部に進学。在学中は外国人初のバスケットボールチーム・ヘッドマネージャーとして各地に遠征。83年卒業。1984年1月から留学指導・語学教育に携わる。現在株式会社アゴス・ジャパン会長。

このReunionの歴代ゲストスピーカーで、アカデミックな話題が全く出ない初めての(?)スピーカーとして任命され、期待を裏切らないようやわらかい中身で語らせていただこうと思っています。留学指導・支援という仕事柄UCLAには毎年行く機会が有り、その際に私が必ず行く場所が2ヶ所あります。ひとつはUCLAバスケットの本拠地 Pauley Pavilion、そしてもう



UCLA Anderson 卒業生との一枚。後右方から二人目がスピーカーの横山です。